

背景・目的

市内では、生産者の自作による非クラウド型の環境制御装置を使った長ナスの養液栽培事例が増えてきていますが、今後に向けた環境制御技術の更なる普及を目的として、自作不要なクラウド型の複合環境制御装置を用いて長ナスの養液栽培を行い、装置の特性等について検証しました。

結果

- ・ ‘PC 筑陽’、自根苗
- ・ 定植 6/13、収穫期間 6/30～10/31
- ・ 1条植え、株間 30cm、123株/a
- ・ 主枝2本仕立て
- ・ 環境制御装置による給液管理（日射比例方式）
- ・ ヤシガラ培地「ココカラ」
- ・ タンクミックスAとBの混合液を液肥原液として使用



栽培圃場の様子



収穫したナス



環境モニタリング装置
「あぐりログ」

環境
データ



環境制御装置
「GO SWITCH」

制御
機器



自動巻上装置



給液装置

**クラウドシステム
による遠隔制御**



制御ソフトウェア
「HouseKeeper」

非クラウド型の自作装置との違い

- ・ 遠隔地でもハウス内環境の確認や制御が可能。
- ・ メーカーサポートを受けやすく、装置に関する専門知識も不要。
- ・ ただし、自作装置に比べて高額になる場合が多く、別途クラウド利用料（通信費）がかかる場合もある。

5月下旬の機器導入であったため、市内慣行作型より定植が遅れましたが、自根苗で1株当たり6.1kgの収量があり、令和6年度に実施した自作の環境制御装置による栽培と8～10月の合計収量が同等となりました。

結果の活かし方

来年度も引き続きこのシステムについて検証し、生産者への情報提供や栽培マニュアル等の整備に活用します。